

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070501954		
法人名	有限会社 エダ		
事業所名	グループホーム はなまる		
所在地	〒800-0222 福岡県北九州市小倉南区中曽根4丁目1-10 093-475-9800		
自己評価作成日	平成24年1月16日	評価結果確定日	平成24年03月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「地域で仲良く、自信と笑顔」の理念のもと、まずは職員が自信を持ち、笑顔で明るく介護をしそれが入居者の方々へ伝染していくようなグループホームを目指してきました。その成果が徐々に表れてきていると自負しております。ケアカンファでは、チームを組み入居者さん一人一人に担当者を決めて、きめの細かい介護計画の作成を行っています。地域の市民センターにはボランティアの依頼や行事への参加、曾根中学校のコーラス部のコンサートや、有志の方々の舞踊や唄・ハーモニカ演奏、子供たちによる剣道や少林寺拳法の演舞、等々地域で仲良くさせていただいています。昨年は、数年前に当ホームで見取りを致しました方の家族の方に、グループホーム協議会の勉強会において、貴重な体験談を御講話していただくなど、ご家族の方々のご理解も頂いていると思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

下曽根駅周辺の副都心に近い、利便性の良い市街地の中に、2階建て2ユニットのグループホーム「はなまる」がある。管理者と職員は、理念を理解した上で、「はなまる流」の介護サービスの在り方を話し合い、職員の気付きや、細やかな配慮を促し、アイデアを出し合い、努力した職員には、毎月「はなまる賞」を決定し、職員の意識を高め、日々の利用者との関わりの中で、充実した介護サービスを実践し、家族からの評価は高いものがある。利用者職員は、地域の市民センターでの文化祭、敬老会等に参加し、ホーム夏祭り、誕生会、出張にぎり寿司等に家族や、地域の方に参加してもらい、利用者の喜びは大きいものがある。また、協力医療機関と常勤看護師による、利用者の健康管理は、24時間365日体制で、安心して任せられるグループホーム「はなまる」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294		
訪問調査日	平成 24年03月21日		

・サービスの生家に関する項目(アウトカム項目) 項目No1~57で日頃の取組を自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域で仲良く、自信と笑顔」を理念とし地域とともに運営していけるように実践している	地域密着型サービスの意義を踏まえた、事業所独自の理念「地域で仲良く、自信と笑顔」を掲げ、管理者と職員は、その理念の理解と共有に努めている。また、日常のケア活動を通して、理念の具現化に向けて取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	お隣さんやお向かいさんとはもちろん、町内会にも入り、回覧板の回覧や、市民センターや曾根中学校との交流など地域とおつきあいをさせてもらっている	地域住民の一員として、町内会に入会し、地域活動の情報収集に努めている。地域の活動や行事には、利用者の参加を含めて、事業所全体で積極的な取り組みが行われ、幅広く多彩な交流が行なわれている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の勉強をしている学生さんの実習、中学生の職場体験を積極的に受け入れている。また、市民センターの教室(日舞、ハーモニカ等)からボランティアに来てもらっている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、評価や助言を頂いた時は、介護に活かしている。	会議は、利用者家族、民生委員、地域包括支援センター職員などの参加があり、2ヶ月毎定期的に開催されている。ホームの運営状況、課題などをもとに、活発な意見交換が行われている。会議で出された意見をサービス向上に活かす取組みが行なわれている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいている、地域包括センターの職員の方とは連絡を取り合い情報交換をしている	運営推進会議に民生委員、地域包括支援センター職員の参加があり、ホームの取り組みや実情についての理解は得られている。また、普段からケースワーカー達は、行政担当者と協力・連携の取組みを行なっている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎回課題になるのが、玄関の施錠であるが、当ホームは交通量の多い道路に面しており、安全面から玄関には施錠をしているが、それ以外の身体拘束はしておらず、職員にも徹底している	管理者と職員は、「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」について、研修やミーティングを通じて理解を深めている。玄関の施錠についてのルールを徹底を図るなど、身体拘束をしないケアの取組みを行なっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については研修や勉強会を設けて、職員全員で虐待の無い介護に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の勉強会を開き、いつでも活用できるようにしている	:現在のところ、権利擁護に関する制度の活用事例はない。研修、勉強会などで制度について理解を深めている。利用者、家族の要望があれば、資料、パンフレットの準備など、いつでも支援できる体制は出来ている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び改定時は家族の方に充分説明し、承諾を頂いている		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の方の意見や要望を聞く制度は設けているし説明しているが、ほとんど意見を頂く事がない	意見箱の設置、介護相談員の受入れ、運営推進会議へ家族の出席、家族会での交流、家族アンケートへの取組み等、利用者、家族の要望・意見を聞く機会が多く設けている。毎月の「はなまる便り」は家族から好評を得ている。	家族が抱えている悩みや心配事等、家族間で話し合える環境をつくり、家族会の更なる充実を期待したい。
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員のミーティングの際に、様々な意見を交換し合い、運営に反映させている	職員ミーティングやカンファレンス等の機会を捉え、全職員の意見を聞く取組みが行なわれている。管理者は、活発な意見交換で出された意見・要望・提案を積極的に採り入れ、ホーム運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って生き活きと働けるように、職場環境・給与水準・労働時間等の整備に留意している。また職員間の切磋琢磨を期待し、業務改善のアイデアを出した職員には「はなまる賞」という賞を与えている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用については、性別や年齢などを理由に採用しないという事は一切ない、また職員の持つ能力に応じて様々な活動を行っている	職員の採用は、人間性を重視し、採用後は、経験年次に応じた研修の実施や職務分担制により、各職員の能力が發揮できる環境を整えている。また、休憩室、ロッカーの完備、休憩時間、勤務シフトなど職員が安心して働けるように配慮されている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	権利擁護、身体拘束や虐待の無い介護、法令遵守などの勉強会の折に入居者さんの人権に関する教育を実施している	管理者、職員は、利用者の人権を尊重する取組みとして、マニュアルの整備や定期的に行なわれる内外の研修・勉強会に参加し、理解を深めている。また、ホーム独自の教育・啓発活動にも取り組んでいる。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外の研修に積極的に参加できる様なシフト作成をし、できるだけ参加できるようにしている、日々の介護の中でも他の職員のケアを参考にしたりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させている取り組みをしている	グループホーム協議会はもちろん、独自にいくつかのグループホームと交流を持ち、勉強会や職員の交換実習などをおこなっている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェースシートや聞き取りで本人の要望や安心を確保するように努めている		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方の要望は入居時はもちろんの事、随時聞き入れながら介護計画に導入している		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今何が必要かを見極めその対応に務め、たのサービスが必要な時は利用するようにしている		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	はなまるでは、入居者と職員は家族であると認識し寄り添いあいながら日々の生活を営んでいる		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方とも入居者さん同様、おなじ家族であると認識し共に入居者さんを支えている		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古くからの知人や、ご近所のかたがたがよく訪問してくれているが、馴染みの場所を訪れるのはなかなかできていない	知人、友人やご近所の方などの来訪も多い。本人が、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係を、継続的に支援できるよう働きかけている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同志がいい人間関係を築いていただくのが、最も嬉しいことのひとつであり、職員はその支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方やお亡くなりになられた方の家族とも交流をいただき、貴重なお話やレクレーションの実施などに協力していただいている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の希望や意向を出来る限り聞き入れ、その人らしい生活ができるようにしている	家族からの情報やアセスメントで、一人ひとりの状態把握を実施している。日々の関わりのなかで、個性に合ったケアに取り組んでいる。意向の表出が困難な場合、本人本位の視点で検討されている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それぞれの方の生活歴を踏まえ、またこれまでのサービス利用の経過も把握するように努めている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化していく心身状態の把握は生活日誌や業務日誌等に記載している。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファはチームを組んで取り組んでおり、本人・家族の意向を取り入れ介護計画を作成している	介護計画、モニタリングは関係者が参加し、ケアカンファレンスにおいて、家族の意向を採り入れ、定期的実施されている。見直しは3ヶ月毎に行なわれ、意見、アイデアを盛り込んだ、現状に即したケアプランとなっている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々変化していく心身状態の把握は生活日誌や業務日誌等に記載している、その経過を介護計画に反映させている		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いろいろなりハビリ用品を取り入れたりハビリや、病院と連携した介護などに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の市民センターや中学校・小学校また、地区の剣道クラブ・少林寺クラブなどと交流をしている		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の方の希望により、連携している医師がかかりつけ医となり、日々の健康状態を把握している	受診は、本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。提携医療機関からの訪問診療、歯科診療などが定期的に行なわれている。また、利用者の急変に備え、24時間対応の医療連携体制が確立されている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中に看護師がいるため、適時適切な受診と看護が受けられる体制である		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、病院との連絡を密にし、早期退院に務めている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時のマニュアルを作成しており、家族の方にも事前に説明している、かかりつけ医とも連携をとって、できる限りの支援をするようにしている	重度化や終末期に向けた取り組みとして、看取りの指針を重要事項説明書に明示し、入居時に事業所が出来ること、出来ないことを説明している。利用者の状態変化に応じて早い段階から家族、医療関係者と方針の共有を図り、利用者、家族が安心できる体制を整えている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に3回から4回の防災訓練を行い、その度にAEDを使った心配蘇生の訓練を全員が体験している		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の際に、避難誘導訓練もしている、地域の消防署や消防団と一緒に訓練をしている	非常災害に備えて、昼夜を想定した避難訓練を消防署の協力のもと、定期的に行っている。訓練実施に当たっては地域の協力も得られている。非常時の食料、飲料水、備品等の準備も行なわれ、AEDも設置されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の人格を尊重し、自身を持ってもらい笑顔溢れる生活を送ってもらうように、言葉かけにも注意を払っている	管理者、職員は人権や接遇の研修を受講し、一人ひとりの人格を尊重した見守り、声かけの支援を徹底している。また、利用者の羞恥心への配慮や個人情報の保護も確保できている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるかぎり自己決定の原則で支援している、		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせた介護を目指しているが、時として職員側の都合で行動している時がある		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容師に来ていただいたり、毎日の整髪化粧なども支援している		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや盛り付けなどを手伝ってもらったり、後片付けを職員と一緒にしたり、食事関連が最も入居者さんと職員が触れ合っている	利用者と職員が談笑しながら同じテーブルを囲み、家庭的な雰囲気のなか、ゆったりと食事を楽しめる支援が行なわれている。出来る範囲で利用者と職員と一緒に、食事の準備や後片付けを行なっている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は毎日記録して、必要量の確認をしている		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前の口腔体操と、毎食後の口腔ケアを実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録によって、トイレ誘導を行い、排泄の失敗やおむつの使用量の減数に務めている	利用者一人ひとりの排泄パターン、習慣、リズムをもとに、早めの声かけ、誘導を行い、利用者の羞恥心に配慮した、トイレでの排泄に留意し、自立に向けた排泄の支援が行なわれている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録によって、水分摂取や運動を推進し、それでも排便の無い場合は、一人一人の状態によって薬の服用をしている		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほとんどの入居者の方は入浴を楽しみにしているが、入浴を拒否される方もいるので、あらゆる手段で入浴してもらおうとしている、決して強制はしない	利用者一人ひとりの希望や体調に合わせた入浴支援が行なわれている。入浴は一日おきとなっているが、2ユニットの利点を活かし、毎日でも入浴が可能である。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人その人に合った休息や睡眠をとってもらっているが、昼夜逆転をしないように注意している		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべての職員が一人一人の薬の効果や副作用を理解しているとは言えない、		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中での役割や趣味などを自ら行ってもらっている、それができない人は職員の誘導によって歌をうたったり、レクリエーションで楽しんでいる		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月レクリエーションで遠足に行ったり、ドライブをしたりしている、その際に地域のボランティアのかたに協力してもらっている	利用者の高齢化とともに、散歩の回数は減少傾向ではあるが出来るかぎり、戸外に出かける支援を行なっている。家族やボランティアの協力を得て、ドライブ、花見、敬老会等、季節の行事を通じての、外出支援が行なわれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の所持は、本人と家族の方の希望があれば、その責任は本人にあるものとして認めているが、それ以外は遠慮してもらっている</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族や知り合いに電話をするのは自由にしてもらっているが、それ以外の方に電話をしてトラブルにならない様に注意している</p>		
54	2 2	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関には季節の花を飾り、居間・台所・廊下・トイレ・居室当の清掃は毎日行い清潔を保ち、壁にはいろいろな飾りや作品などを貼り、心地よい空間になるようにしている</p>	<p>利用者が多くの時間を過ごす共用の場所は、生活感や季節感を採り入れ、ピアノや床暖房、清掃のいきとどいたフロア、利用者と職員で製作された多くの作品、楽しく過ごした各種行事の写真掲載等、アットホームで、利用者が落ち着いて寛げる居場所となっている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>各人の席やソファなどに座って気分転換したり、気の合った人同士でおしゃべりができるような席順を考慮している。</p>		
56	2 3	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>何か1点は使い慣れた馴染みのある家具を持ち込んでいただきたいと家族にお願いしている</p>	<p>一人ひとりの居室は、馴染みのものを活かした部屋作りとなっている。清潔で安全に配慮された居住環境で、居心地良く過ごせるよう配慮されている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>室内はすべてバリアフリーでつまずいたりする事の無いようにしている、又居間や廊下には手摺りがあるので、自由に室内を移動できている</p>		